

平成26年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

吉備高原にお出かけ ～自然のこと・生き物たちのこと～

通年実施

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

吉備高原の自然の魅力を多くの市民に伝える活動や活動プログラムの開発に市民と協働して取り組み、観察会の準備や運営、講師の経験をとおして自然体験活動の指導者を養成する。

2. 事業の概要

(1) 日程

「吉備高原」自然の会 定例会

- ① 4月20日(日), ② 5月 3日(土), ③ 5月31日(土),
- ④ 7月 6日(日), ⑤ 9月20日(土), ⑥10月18日(土),
- ⑦10月30日(木), ⑧ 1月12日(月), ⑨ 3月 1日(日),
- ⑩ 3月 7日(土)～8(日) 【研修会】

観察会

- ① 4月27日(日)(日帰り) 「春を食べる(山野草の観察と料理)」
- ② 6月 8日(日)(日帰り) 「四平山の昆虫観察」
- ③ 7月21日(月)(日帰り) 「絶滅危惧種ブッポウソウの観察」
- ④10月25日(土)(日帰り) 「ドングリと昆虫の世界」

(2) 参加者

「吉備高原」自然の会：吉備高原の自然に関心のある方

10回合計 延48名

観察会：小学生を含む家族・グループ、中学生～一般

4回合計 延96名

(①29名, ②13名, ③24名, ④30名)

(3) 講師

研修会講師

吉田 新一郎 氏(プロジェクト・ワークショップ事務局)

観察会講師

- ①小田 若那 氏(「吉備高原」自然の会),
友延 栄一 氏(「吉備高原」自然の会, 岡山の自然を守る会)
- ②木下 義久 氏(「吉備高原」自然の会),
伊藤 國彦 氏(「吉備高原」自然の会, 岡山の自然を守る会)

- ③黒田 聖子 氏（「吉備高原」自然の会，日本野鳥の会岡山県支部）
- ④小田 若那 氏（「吉備高原」自然の会）
- ⑤カブトムシ ゆかり 氏（タレント）

（４）企画・運営のポイント

◇「吉備高原」自然の会のメンバーによる観察会の実施について

２年目を迎えるに当たり，メンバーが主体となって観察会を実施できるように役割分担を考えた。

昨年度は当施設職員が担当していたチラシ作成や全体の進行もメンバーが担当するようにした。

◇観察会の企画

年度計画を検討する際に，メンバーの専門性や興味に関連するテーマを選び，観察会を企画した。

◇勉強会・研修会・懇親会の企画

メンバーの興味・関心のある内容，専門性のある内容を他のメンバーと共に学ぶことができるように，持ち寄りのテーマについて勉強できる機会を設けたり，必要と感じたテーマの研修会を企画したりした。

さらに今年度は，交流を深めるための懇親会もメンバー主体で企画した。

◇スペシャルゲスト招聘による観察会の充実

観察会のスペシャルゲストに，虫ドルとして活躍されているカブトムシゆかり氏を招聘した。参加者と共に活動するとともに，昆虫の魅力を伝えるコーナーも設けることができ，会のメンバーだけでは実施できない内容を提供できるようにした。

3. 活動の内容等

（１）「吉備高原」自然の会

月１回の定例会を実施し，当施設の自然を観察するとともに記録に残した。

さらに，観察会の内容や実施方法などを企画する打合せ会や，メンバーが自主的に参加した研修会の内容を伝達講習する勉強会を設けた。

昨年度に引き続き，最終回は講師を招聘しての研修会を企画した。今年度は，プロジェクト・ワークショップ事務局の吉田新一郎氏を講師に招聘し，「『学び方』から考える，主体性を育む体験活動の『指導法』」と題して研修を実施した。

この研修では，指導力の向上を図るため「学び方のプロセス」や「効果的な指導法」を学んだ。

１日目は，参加者が持ち寄った絵本を活用した自己紹介や，自分が考えるベストのプログラムを書き出したり，さらに，講師が推薦する絵本「てん」の読み聞かせや，グループで絵本を読み合う「リーディング・ワークショップ」の体験をしたりすることで，「学びの原則」について研修した。

２日目は，１日目の研修内容をふまえて「ベストプログラム」を改良し，その改良案に仲間からのフィードバックを受けるのに有効な「大切な友達」という活動を体験した。

最後に，日本の研修の多くは「研修（体験）の終わりが，すべての終わり」となることが大半であるが，一番重要なのは研修後のため「研修の終わりが，すべてのスタート」と

なるようにすることが重要であることを学んだ。

本研修でも「研修の終わりが、すべてのスタート」となるように、終了後にフィードバックのメールでのやりとりが継続しており、今後は各自のテーマにあわせた本をグループで読みあうブッククラブを実施する予定である。



【絵本で自己紹介】



【絵本「てん」の読み聞かせ】



【大切な友達】

(2) 観察会

第1回「春を食べる（山野草の観察と料理）」

4 / 27 (日)	
時程	活動
9:30	受付
10:00	開会式
10:10	野草・山菜採り
12:00	収穫物の説明・調理
13:45	閉会式



【採った野草を調理】

第2回「四平山の昆虫観察」

6 / 8 (日)	
時程	活動
9:45	受付
10:00	開会式
10:10	四平山に移動
10:30	観察・昆虫採集開始
12:25	展望台で昼食
12:50	閉会式
13:30	解散



【標本を活用した昆虫の紹介】

第3回「絶滅危惧種ブッポウソウの観察」

7 / 21 (月)	
時程	活動
8:40	受付
9:00	開会式
9:10	ブッポウソウの基礎知識 双眼鏡の使い方
9:40	マイクロバスで出発・観察
12:00	閉会式



【写真とエサの昆虫標本で説明】

第4回「ドングリと昆虫の世界」

10/25(土)	
時程	活動
9:15	受付
9:30	開会式
9:45	「ドングリの魅力」
12:00	昼食
13:00	「昆虫の魅力」
14:00	(スペシャルゲスト カブトムシゆかり氏)
15:30	閉会式



【カブトムシゆかり氏の昆虫クイズ】

4. 成果・課題

(1) 成果

◇「吉備高原」自然の会の指導力が向上した。

昨年に引き続きスタッフを中心に観察会の企画・運営を実施したことで、各スタッフの専門性や得意分野を取り込みながら事業を展開することができた。

例えば、観察会③「ブッポウソウの観察」では、ブッポウソウを専門に観察しているスタッフの指導に加え、昆虫に関心の高いスタッフがそのエサとなる昆虫の標本作製し、実物を見せながら説明することができ、参加者の理解を深め興味を高めることができた。

◇スタッフ同士で学び合う環境を整えることができた。

観察会①「春を食べる」では、植物に関心があり学びたい意欲をもつスタッフが、植物の専門知識をもったスタッフから事前の打ち合わせで指導を受けることで、当日の進行を担当することができた。

その他にも、スタッフが外部で受けた研修の内容を、他のスタッフに伝える勉強会を実施することもできた。

さらに、観察会②の開催場所を選んだ四平山は、スタッフがかつてから昆虫観察のフィールドとしていた場所であったことから、今後は自然の会のスタッフも一緒に定期的な観察を実施することになった。

◇観察会の内容を充実することができた。

スタッフの専門性や興味のあることをテーマにすることで、「吉備高原の自然」を軸に多彩なテーマに取り組むことができた。

観察会①「春を食べる」の参加者の感想には、「コンセプトが良いと思いました。野草や山菜はたくさんの種類がある、タンポポは苦い、ヨモギの天ぷらは美味しいということが分かった。」とありました。

観察会②「ブッポウソウの観察」では、「ふだん聞いている『ゲゲッ』という鳴き

声がブッポウソウとは知りませんでした。町内に住んでいて初めての観察楽しかったです。」と感想があり、地元の方が地元の自然を見直すきっかけにすることができた。

◇著名人をゲストに招聘することにより取組を多くの方に伝えることができた。

観察会④「ドングリと昆虫の世界」では、カブトムシゆかり氏をゲストに招聘した。観察会としては一番参加者の多い30名の参加があり、カブトムシゆかり氏のブログで会の取組を紹介していただくなど、多くの方に広報する機会となった。

◇観察会に参加した方が、地元の自然を見直す機会となり、自然の魅力に新たに気付く機会となった。

観察会②に参加者からは「ブッポウソウの巣箱がこんな身近にあるとは思いませんでした。家の近くに巣箱を設置したら来るかなあ〜と子どもたちと話していました。」といった感想をいただいた。

◇スタッフ同士が観察会・打合せ以外で交流を深めるようになった。

昨年度は観察会や打合せの場のみでしかスタッフが集まることがなかったが、食事会など、スタッフからの声かけでの交流の機会が増えた。

スタッフの交流が深まることは、会の発展にとっても重要であるため、今後もこうした機会を大切にしていきたい。

(2) 課題

◇「吉備高原」自然の会の会員の増加

今年度、新たに活動に加わったのは1名であった。会の活動を充実するためにも、会員を増やしていく必要がある。

◇「吉備高原」自然の会の自立

これまでは、観察会の実施や会の運営など事務局となる役割を、当施設担当職員が実施していた。継続的に自然の会が運営できるようにするためにも、会長を中心とした会員自身が会の運営を担う必要がある。

担当：企画指導専門職 渡邊 剛志